

日本

生産拠点の集約化など構造改革を実行し、収益性の高い事業構造の獲得へ



事業環境認識

強み (Strengths)

- 圧倒的なシェア
- 多品種対応能力
- 顧客ニーズとのすり合わせ力
- 大型熱間圧延ラインを2製造所で保有
- 長年にわたる顧客との良好な関係

機会 (Opportunities)

- 脱プラスチック化と自動車軽量化の高まり
- デジタル化の進展によるIT材、半導体関連需要の拡大
- BCPなどを踏まえた国内生産体制の見直し

弱み (Weaknesses)

- 多品種、小ロットでの生産性
- マーケティング力 (新規需要獲得力)

脅威 (Threats)

- 人口減少にともなう市場縮小
- コモディティ化した製品における、安価な輸入材とのコスト競争

2019年度の概況

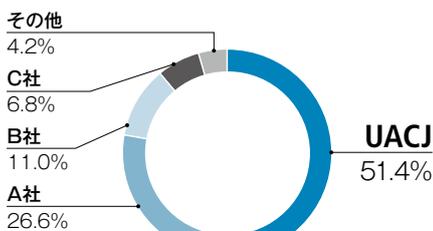
国内事業においては、自動車パネル材を中心に自動車材の販売が堅調に推移しました。しかし、主力の缶材の販売数量は微減となり、IT材や液晶・半導体製造装置用の厚板の販売数量も2018年から続く米中貿易摩擦の影響やそれにとまなう景況感の悪化などによって減少しました。こうしたことから、国内事業全体でも販売数量、売上高共に減少しました。一方、福井製造所の自動車材の仕上ラインや押出事業の名古屋製造所の新型プレスを立ち上げ、国内の自動車材事業の拡大に向けた体制づくりは着実に進展しました。

今後の見通し

新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、自動車の生産中止などの経済活動の自粛の影響が出ており、また米中貿易摩擦も長期化していることから、販売数量の減少が見込まれます。また、中長期的には人口減少にとまなう需要の減少も予想されます。

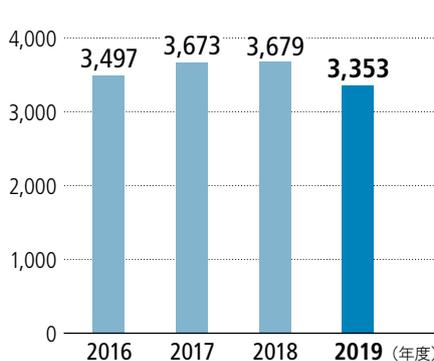
そのため、生産拠点の集約をはじめとした最適生産体制の構築を構造改革の柱の一つとして行っています。損益分岐点を引き下げ、市場縮小のなかにおいても収益性の高い事業として展開できるよう、計画通りに構造改革を進めます。

アルミニウム圧延品国内生産量の比率 (2019年度)

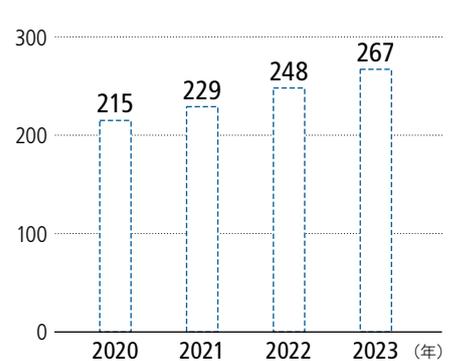


出典：カロス出版『アルトピア』2020年9月号

売上高 (日本) の推移 (億円)



輸送*向けアルミニウム板消費量 (日本) の予測 (千t)



*自動車・航空機・船舶などの総称
出典：CRU Aluminium Rolled Products Market Outlook May 2018 等に基づく推定値